医療現場リアル No.4

チーム医療と多職種連携を実践で読む —— カンファレンス・ICT・役割分担の現実

⭐ **清光学院の講師は、大学病院・市中病院でチーム医療の実践に携わってきた医師・医療専門家です。**カンファレンスの現実・多職種間の摩擦・ICT活用の実態を当事者として知っており、その経験がこの講座の根拠になっています。

1. この講座が有効な入試問題のタイプ

① チーム医療・多職種連携を問う小論文

「チーム医療の理想と現実を論じよ」という小論文は医学部で頻出である。カンファレンスの実態・役割分担の現実を知っている受験生は、理想論ではなく現場の論拠で答えられる。

② 医師のリーダーシップを問う問題

「チームの中で医師はどのような役割を果たすべきか」という問いは医学部面接の定番である。多職種連携の現実を知っている受験生は、リーダーシップの「実践」を語れる。

③ 「ICTと医療」型の問い

「医療のデジタル化についてどう思うか」という面接質問に、カンファレンスでのICT活用の現実を踏まえて答えられる受験生は、試験官に実践的な視点があると判断される。

2. 具体的な大学・学部との対応

大学・学部	出題の傾向	本講座との対応
医学部全般（小論文・面接）	チーム医療・多職種連携を論じる問題	現場の実態が理想論との差別化を生む
医学部推薦・総合型選抜	「医師としてのリーダーシップ」型の問い	多職種連携の現実が具体的な論述を可能にする
看護・医療系学部（全般）	チーム医療における各職種の役割	役割分担の現実が職種横断的な理解を示す
地域枠・総合診療系	地域医療・多職種協働の実践を問う問題	連携の現実が地域医療論に直結する

3. なぜ差がつくのか・受講後に期待できる変化

「チーム医療が大切です」という答案は採点者には「現場を知らない」と映る。授業の詳細な内容はここでは述べないが、受講後には（1）カンファレンスの実際の流れを説明できる、（2）多職種連携の「現実の摩擦」を踏まえた論述ができる、（3）面接でICT活用も含めたチーム医療を実践的に語れる、という変化が起きる。

清光学院の講師陣は、関連する入試問題で「表層的な答案」と「深い理解を示す答案」の評価の差がいかに大きいかを採点者として知っている。その実感が、この講座の根拠である。